

北海道新聞

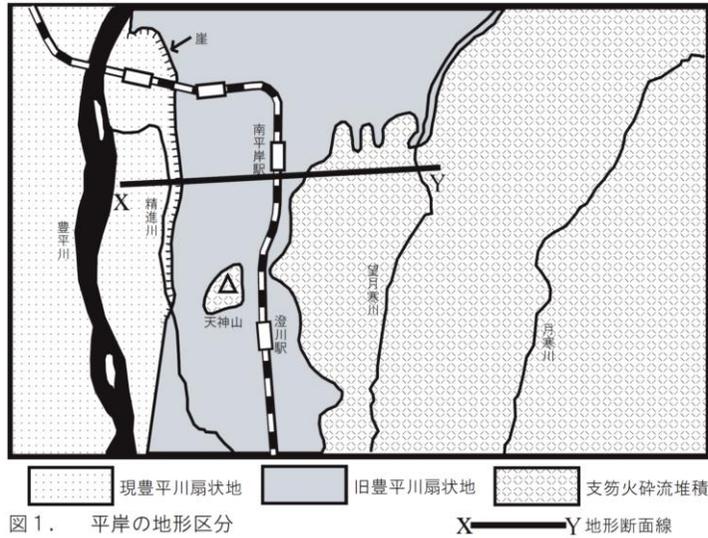
平岸の歴史を訪ねて

自然史編

第3回・母なる豊平川とふたつの扇状地①

更新世		縄文～擦文	明治					大正	昭和			平成	時代
4万年前	1万年前	7千～千年前	4	6	8	23	44	7	16	43	46	2	年代
支笏火砕流の発生	旧豊平川扇状地の形成	ぼうず山・東山遺跡 天神山チャシ	岩手県からの集団入植	平岸用水の開削	リング栽培の開始	平岸小学校開校	あんぱん道路の完成	定山溪鉄道の開通	平岸霊園の開園	HTB開局	地下鉄南北線開業	羊ヶ丘通全面開通	できごと

アイヌ語の地名のほとんどは、その土地の地形から付けられています。札幌の地名の由来はサツ・ポロ・ペツ(乾く・大きい・川)と言われています。定山溪の奥の山々を源に発する豊平川も上流部でこそ深い渓谷を作っていますが、平野部にでると川筋はいくつにも分かれ、水深も浅くなり、それまで運んできた砂礫を堆積して扇状地を形成します。扇状地の砂礫は水を浸透しやすく融雪期を除けば乾いた広い川原が広がっていたので、その様子から『乾いた大きな川』と付けられたのでしょうか。また、平岸の地名の由来は、ピラ・ケシ(崖・端)と言われています。この崖は、平岸と中の島の境界を流れる精進川沿いの崖と考えられています(図1)。



「札幌の平岸」とはアイヌ語では「扇状地上の崖が広がっている場所」ということになるでしょう。平岸の地形のあらまはしは東西方向にその変化を眺めてみることでよくわかります。豊平川から高台を登り、望月寒川にいたるまでの地形の変化(図1のX・Y間)を白石藻岩通り沿いに調べてみましょう。

図2は人工的な改変が加わる以前の地図を基に作成した地形断面図です。これを見ると、平岸の地形は、①豊平川から精進川にかけての平坦部(現豊平川扇状地)、②精進川から高台の手前にかけての平坦部(旧豊平川扇状地)、③高台の凹凸部(支笏火砕流堆積物)の3つに大きく分けられることがわかります。

高台地域は昭和40年代の造成工事により現在ではだいぶ平坦化されていますが、もともとの地形は尾根と沢が繰り返す起伏に富んだ地形でした。先月の連載で述べたように、ここは支笏火山が噴火した際の火砕流でできたものです。ところによって大きく削られているものの、最も高い標高が72mの高さで一致していることから、火砕流が流れてきたときに72mの高さまで埋め立てられ、その後、4万年の長い年月をかけて川や雨水により、もろい部分を中心に削り取られていったことがわかります。



図3. 支笏火砕流と古藤野湖の位置関係

支笏火砕流は、豊平川の対岸の藻岩山麓付近まで分布していることから、火砕流は当時の豊平川を埋め立て、その流れを一時的に遮断したと考えられています。火砕流にせき止められた豊平川は水の出どころを失い、現在の藤野あたりを中心にせき止め湖ができました、『古藤野湖』ではありませんが、湖から流れ落ちる川の流れ(おそらく滝になっていたでしょう)によって少しずつ削り取られ、徐々に水位が下が

り、やがて湖は決壊し、川に戻ったと考えられます。次回は豊平川が作った新・旧二つの扇状地の成り立ちについてお話いたします。

参考資料 関根達夫(2011)『古藤野湖は存在したか?』平成23年度日本応用地質学会講演予稿集
バックナンバーお届けいたします。バックナンバー保管してありますので、ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。ご自宅までお届けいたします。

【編集後記】

身近で・面白く・わかりやすく

本連載を執筆するにあたり、自らに課しているルールがある。①読者の皆様が親しみを持てるようにできるだけ身近な地域の情報と絡めて紹介すること。②学術的な正確さよりも面白さを優先すること。③文章だけにたよらず、写真や図を多用し視覚的にわかりやすいものにする。④3点である。格式ばった郷土史というよりも気軽な読み物としてご覧いただければとの思いからである。また、今後近代を扱うにあたり、できるだけその当時の開拓者の声を拾うことで、無機質な教科書的なものではなく、昔の人々の生き様が伝わるような血の通ったものにできればと考えている。身近で、面白く、わかりやすくをテーマに取り組んでいきたい。

執筆者：道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球学科博士課程
(古生物学専攻)を修了後、六花亭に入社。2011年より現職。

◇発行元◇
北海道新聞永田販売所
〒062-0936
札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18
Tel: 01120-1128-348
Fax: 01120-1128-358

◆この連載は毎月1日・15日の道新朝刊に折り込みいたします。

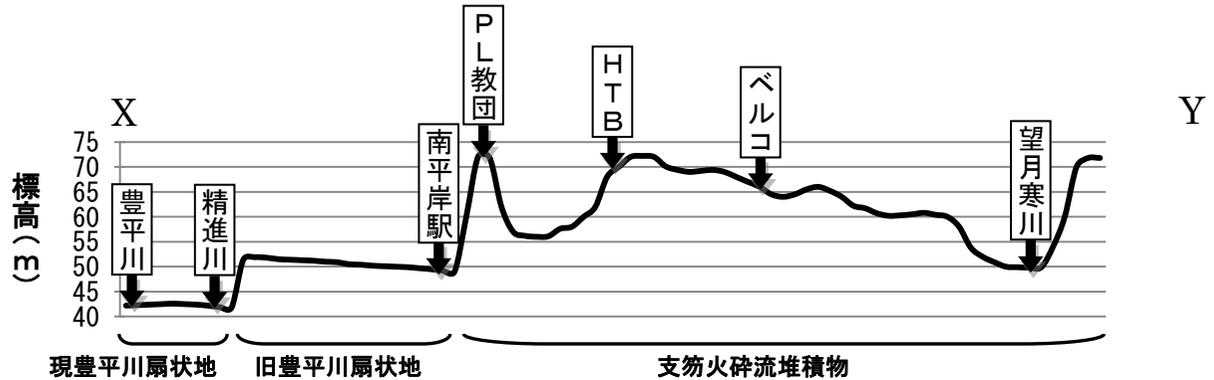


図2. 白石藻岩通り沿いの豊平川～望月寒川間の地形断面図
大正7年大日本帝国陸地測量部発行2万5千分の1地形図および昭和44年札幌市現況図をもとに作成。